

育児のヒント
もみつかる!

子どもの心を育む

ガイド

絵本案内

体の成長や言葉の発達と同時に育てたいのが子どもの“心”。「絵本はその手助けをしてくれる最強ツール！」と語る読み聞かせのプロに、めばえっ子の心が豊かになるおすすめの本を教してもらいました。



絵本案内人



NPO法人「絵本で子育て」センター
絵本講師 上甲知子さん

子育てをしながら絵本講師の資格を取得。神奈川県南足柄市や小田原市を中心に、読み聞かせの会を意欲的に開催している。3児の母。
ameblo.jp/osekkainaobasan/

Q 「もう1回!」の連続で 読み聞かせが終わりません

A 繰り返し読んでほしい=「楽しかった!」という気持ちの表れ。つまり、「もう1回!」は子どもから親への褒め言葉と捉えて。どうしても終わらせたいときは、読む前にあらかじめ「次で終わりね」と伝えておきましょう。

教えて!
こんなとき
どうすれば
いいの?

Q おとなしく聞いてくれません

A 最初から、ストーリー重視で絵本を選んでいませんか? まずは耳心地の良い、リズムにのせて読める作品から始めれば、飽きずに聞いてくれるかも。ページをどンドンめくってしまうのも、子どもが本を楽しんでいる証拠です。

Q 上の子と下の子で 読んでほしい絵本が違います

A こういう時って、下の子優先で上の子をつい後回しにしがちですね(笑)。下の子がお父さんとお風呂に入っているときや、いつもより少し早起きして上の子だけに読んであげる時間を作ると、二人とも満足してくれますよ。

Q 絵本をすぐ破いてしまいます

A 本人に悪気はなく、力加減が分からずに破いてしまったのだと思うので、怒らずに、「破れちゃったね…」と残念そうな顔をして直すところを見せましょう。専用のテープを使うと、退色せず、キレイなまま保存できますよ。



極薄で透明度の高い補修テープ。破れた箇所が目立たず、紙の酸性化も防止。
ペーパーエイド 980円/フィルムルックス ☎03-3269-0491



「読んで」と言われたら「ハイ、喜んで!」

子どもは忙しいときに限って「読んで!」と絵本を持ってきますよね。そんなとき、私は家事の手を止めてでも、「ハイ、喜んで!」とその場ですぐ読んであげることになっています。絵本を一冊読むのに必要な時間は2〜3分。その短い時間だけでも親の心と体をきちんと向けられ、さらに、絵本の中の美しい色彩や言葉に触れることで、豊かな心が育まれます。知識や感性は学校や習い事で養うこともできますが、幼児期の心育では親にしかできません。絵本は、そんな親をサポートしてくれる育児の最高・最強ツールです。

なかには「上手に読めないから…」と読み聞かせを敬遠する親御さんもいますが、うまいへたは関係ありません。大切なのは親の声で語りかけること。実際、専門機関では、乳児が母親とそれ以外の女性の声を聞き分けるような脳反応を示したとの研究結果も発表されています(※)。また、読み聞かせは選んだ絵本によって、子どものその時の気持ちを知らせてあげられるチャンス。せっかく買った(借りた)本に最初は興味を示さなくても、しばらくして「読んで!」ということもよくあります。選ぶときに迷ったら、まずは親自身が楽しめる絵本を選びましょう。

※直井望 他「近赤外分光法を用いた対乳児音声に關する脳反応の検討」
哲学No.121,p.147-158(2009)より。